

第3号議案

道整備交付金事業

うめだおだいらせん

梅田小平線 桐生市、みどり市

着工年度

評価理由

平成元年度

再評価後5年経過

1. 事業の目的

- ・桐生市梅田町・みどり市大間々町は県内でも屈指の優良材生産地域であり、森林経営の基盤となる林道整備を行い、森林整備の推進を図る。
- ・本路線の利用区域1,971haの67%を占めるスギ・ヒノキ等の充実した木材資源の利用を図る。
- ・周辺集落の生活基盤整備及び集落間の相互連絡を果たし森林地域及び山村地域の路網形成を図る。



詳細位置は
2事業概要と進捗状況
(裏面)のとおり

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	きりゆうしうめだちようよんちようめ おおままちようおだいら 桐生市梅田町四丁目～みどり市大間々町小平	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	7,269百万円	7,957百万円
全体事業費増減の理由	計画延長変更による事業費の見直しのため	計画延長・事業費・工事期間を見直しのため
事業期間	H元～H32	H元～H32
事業内容	道路延長 15,700m 幅員 4.6m～5.0m	道路延長 18,000m 幅員 5.0m

事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯		全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の 進捗状況 (進捗率)
H元	全体計画調査	事業費	7,269百万円	5,193百万円 (71.4%)	4,537百万円 (57.0%)
H2	工事着工				
H13	計画変更(延長)	計画延長	15,700m	11,638m (74.1%)	10,058m (55.9%)
H14	計画変更(事業費)				
H21	計画変更(事業期間・延長・事業費)				
H25	計画変更 (延長・事業費)				

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



事業期間	延長 (m)	事業費 (千円)	森林整備 実施面積 (ha)	備考	凡 例		
H元～H5	1,647	546,820	112		完成 区間	H元～H5	—
H6～H10	2,575	1,275,500	110			H6～H10	—
H11～H15	3,700	1,417,700	200			H11～H15	—
H16～H20	2,136	1,297,400	163			H16～H20	—
H21～H25	1,580	656,074	438			H21～H25	—
H26～H30	2,153	1,895,000			未完成 区間	H26～H30	---
H31～H32	1,909	181,000				H31～H32	---
計	15,700	7,269,494	1,023				

- ・H元～H5 :平成元年に全体計画調査を実施後、H2から県道小平塩原線と接続し、人家区間である「折の内工区」から改築工事に着手、起点となる「忍山工区」は、H3から市道先の工事に着手。
- ・H6～H10 :県道駒形大間々線先の林道赤柴線からアクセス道(赤柴支線)を整備し、「赤柴工区」を新設、「折の内工区」との早期連絡に向け重点的に事業を実施。
- ・H11～H15 :早期完成を図るため、H11から県道沢入桐生線先に「鍋足工区」を「赤柴工区」に向けて新設。
- ・H16～H20 :重点的に事業実施を行った、赤柴～折の内間はH18に開通。
- ・H21～H25 :早期完成を図るため、H23から「赤柴工区」を「鍋足工区」に向けて新設。また、コスト縮減を図るため、鍋足～赤柴間の一部は路肩を縮小し開設を実施。
- ・H26～H30 :忍山～鍋足間はH27に開通予定。
- ・H31～H32 :最終区間の鍋足～赤柴間の早期完成を目指す。

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・長期にわたる木材価格の低迷から林業生産活動は依然として停滞している。森林・林業を再生するためには、素材生産を低コストで行うための路網整備が必要である。
- ・県内でも屈指の優良材生産地である当該地域に於いて、林業経営の基盤となる梅田小平線の必要性は高まっている。



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・当該地域に縦(南北)に延びる4路線の県道及び林道を横(東西)方向で連絡することにより、効率的な森林整備が可能となる。
- ・完成区間は共用開始しており、利用区域内では5ヶ年間で438haの森林整備が実施されている。また、桐生市とみどり市を結ぶ区間(折の内工区)の一部は生活道としても利用されている。



費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		林野公共事業における事前評価マニュアル		林野公共事業における事前評価マニュアル			
基準年		平成20年度		平成25年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	8,926,081	99.9%	10,602,366	99.7%	社会的割引率を考慮した現在価値に換算	
	維持管理費	11,830	0.1%	31,022	0.3%		
費用合計(C)		8,937,911		10,633,388			
便益 (千円)	木材生産等便益	3,962,416	36.6%	8,998,649	58.8%	木材生産増加による伐採運搬経費の縮減や木材利用の増による	
	森林整備経費縮減等便益	2,008,395	18.5%	39,754	0.3%	マニュアルの変更により作業道作設経費の縮減便益の皆減	
	森林の公益的便益	3,352,304	31.0%	3,574,900	23.4%	整備された森林の蓄積量増加に伴う、環境保全便益の増による	
	森林総合利用山村振興便益	1,502,645	13.9%	2,675,983	17.5%	森林整備対象面積の増加に伴う林業従事者就労機会の増による	
便益合計(B)		10,825,760		15,289,286			
費用対効果分析(B/C)		1.21		1.44			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

全体計画延長が約16kmと長大であり、4工区により工事を行っているが、山間地での工事のため、工事進入路の制約などがあり、長期計画となっている。



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・本路線は、桐生市梅田町・みどり市大間々町に広がる県内でも屈指の優良材生産地域であり、この地域の林業経営の基盤となる重要な林道である。
- ・現在、県道小平塩原線と林道赤柴支線を連絡する折の内工区は完成しており、県道沢入桐生線と林道忍山線を連絡する忍山工区も平成27年度には繋がる予定である。また、完成区間から供用を開始しており、森林整備実績も増えている。
- ・工事実施において、用地等の関係から線形を変更し、縦断勾配や曲線半径の修正等を行ったことにより延長が減少した。また鍋足工区、赤柴工区間にある鳴神山周辺は、絶滅危惧種に指定されているカッコソウの生息区域のため、自生箇所を避けるための路線変更の必要が生じた。このことにより、平成25年度に全体計画の再調査を行ったところ、全体計画延長が15.7kmとなり、2.3km減少した。今後は残りの2工区を平行して進め、平成32年度の全線開通を目指す。
- ・工事開始前の昭和63年から地元市議・自治会長・山林所有者等を委員とする「林道梅田・小平線開設促進期成同盟会(現:連絡協議会)」が設立され、林業経営のための路網整備ばかりでなく、梅田、川内、小平各集落間を連絡し、山村地域の振興のための路線として、全線開通に対する要望の高い路線である。
- ・広域的な森林資源の活用や森林管理及び集落間を結ぶ生活基盤の施設として重要な路線であるため、事業継続が妥当である。